

新聞切り抜き作品づくりを通じた社会理解と自己理解の評価に関する検討
梅田恭子（愛知教育大学）・原田茉衣（愛知教育大学卒業生）・
京免徹雄（筑波大学）・石川保典（中日新聞社）・土屋武志（愛知教育大学）

A Study of Evaluation of Social-understanding and Self-understanding
through Making SHINBUN-KIRINUKI-SAKUHIN

Kyoko UMEDA・Mai HARADA・
Tetsuo KYOMEN・Yasunori ISHIKAWA・Takeshi TUCHIYA

1. はじめに

（1）研究の背景

今年度から順次実施される新学習指導要領で、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力と位置付けられた⁽¹⁾。情報活用能力とは、コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力であり、さらに、基本的な操作技能やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものとされている⁽¹⁾。特に情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信する力を育成する活動の一つとして、新聞切り抜き作品が挙げられる。

新聞切り抜き作品とは、興味や関心のあるテーマにあった新聞記事を切り抜いて集め、模造紙（B紙）にレイアウトよく張り付けた後、見出しや自分の意見、感想を書き入れて完成させた作品のことで、中日新聞社が考案した新聞記事を使う独自の学習法である⁽²⁾。

この新聞切り抜き作品について、2015年から2017年8月までの新聞切り抜き作品教育効果検証委員会で検証を行った⁽³⁾。その結果、大きく二つの成果が得られた。一つ目に「新聞切り抜き作品づくり」の目標を明確化し、活動のプロセスを明らかにしたこと、二つ目に新聞切り抜き作品づくりの効果検証を行ったことである。そして、①形式だけではなく、中身を伴えば、テーマに沿って記事を分類し、自分の考えを読み手に訴えるために記事の内容に即した感想や考えを書く情報活用能力を向上させること、②また、総合的な学習の時間で目指す資質や能力・態度⁽⁴⁾を向上させること、③最終目標は、「テーマに対しての問題点や自分たちの夢や希望を書ける」であることが明らかになった。さらに、これらは新聞を使った日常的な活動（例えば、記事のスクラップや毎朝の1分間スピーチなど）の上に成果が得られることも分かった。一方、初めての調査であり、参加校の選び方や検証の方法の周知に不備があり、信頼性に欠ける部分があることや、最終目標を含む学習目標の明確化は、検証の過程で明らかになったことであり、学習目標を達成したかどうかの調査は行っていないことが課題として残った。

（2）研究の目的

上記の結果を受け、本研究では以下のことを明らかにすることを目的とする。

[1] まず、新聞切り抜き作品づくりの最終目標である「テーマに対しての問題点や自分たちの夢や希望を書ける」を評価する指標（ループリック）が存在しない。そこで記述式調査の評価指標を作成することを第1段階の目的とする。

[2] 次に、作成したループリックを用いた検証を行うこと、さらに、切り抜き作品自体の評

価も試みることを第2段階の目的とする。

本研究では、上記目標[1]を2018年度⁽⁵⁾に、目標[2]を2019年度⁽⁶⁾に実施した。

2. 目的[1]:最終目標を評価する(社会理解と自己理解の)指標の作成

新聞切り抜き作品づくりの最終目標である「テーマに対しての問題点や自分たちの夢や希望を書ける」について、①社会理解として「新聞切り抜き作品づくりを通して学んだこと」、そして②「その社会の中でどんな人生を歩みたいかという夢や社会の中での役割」という自己理解という2つの側面と、上記①と②のつながりについて、の3つの観点で評価することとした(図1)。しかし、上記を評価する指標(ループリック)が存在しない。そこで活動の事前と事後に記述式調査を実施し、社会理解や自己理解を評価する評価指標(ループリック)をボトムアップ的に作成する。

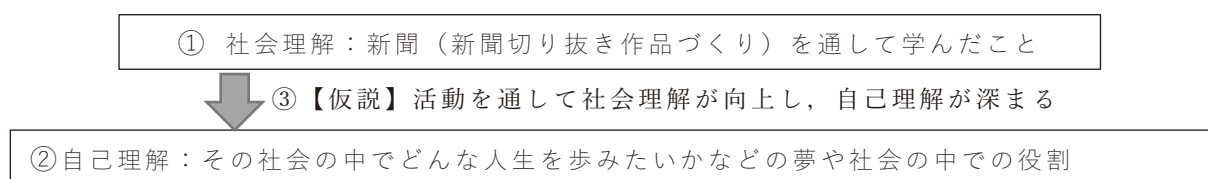


図1 新聞切り抜き作品づくりの最終目標の評価の3つの観点

(1) 調査の概要

愛知県内のA中学校1年生199名とB中学校1年生195名に対して、新聞切り抜き作品づくりの前後に調査紙を用いた調査を行った。調査の内容は、(a)キャリアレジリエンス能力尺度16項目⁽⁷⁾、(b)総合的な学習の時間で目指す資質や能力・態度に関する尺度46項目⁽⁴⁾、(c)記述式調査の3つである。事前を2018年7月に、事後9月から10月に実施した。ただし、A中学校は記述式調査については67名のみが回答した。なお(a)については、自己理解や社会理解についての関連を客観的な指標として、(b)については前調査⁽³⁾との継続性の観点から採用した。(c)の記述式調査については、事前には、「新聞切り抜き作品のテーマ」「そのテーマに対して現在やってみたいこと」「そのテーマに対して大人になってやってみたいこと」の3点を問うた。事後については、「新聞切り抜き作品のテーマ」「事前とテーマが変わったかどうか」「そのテーマに関して現状と課題および課題の解決改善方法」「そのテーマに対して現在やってみたいこと」を問うた。なお、本研究の目的が最終目標の評価指標に焦点を当てていること、また紙幅の関係から、本稿では上記(c)の記述式調査についてのみ論じることとする。

(2) 評価指標(ループリック)の作成方法

まず、調査対象校であるA中学校(67名)、B中学校(199名)から、各20名の記述を無作為抽出した。その上で、著者の一人である京免および教職志望の学生・大学院生の計4名で、西岡⁽⁸⁾の手法に則って事前および事後の記述を検討した。その上で、「現在やってみたいこと」および「大人になってやってみたいこと」の分析を基に自己理解のループリックを、「テーマに関して、その現状と課題、および課題の解決・改善方法」を基に社会理解のループリックを作成した。ただし、社会理解については、事後の記述のみを対象とした。

(3) 結果と考察

完成したルーブリックは表1と表2の通りである。また、ルーブリックの各尺度における記述例は、表3～5の通りである。

表1 自己理解（事前・事後）のルーブリック

尺度	4	3	2	1	0
評価基準	文化的・社会的課題をふまえて、自分の現在やりたいことが具体的な方法とともに書かれており、その内容と発展的なつながりをもって、大人になってやりたいことが書かれている。	文化的・社会的課題をふまえて、現在あるいは大人になって自分のやりたいことが、それを実現する具体的な方法とともに書かれている。	文化的・社会的課題をふまえて、現在あるいは大人になって自分のやりたいことが書かれている。	現在あるいは大人になって自分のやりたいことが書かれているが、文化的・社会的課題に対する認識が薄い。	現在あるいは大人になって自分のやりたいことが書かれていない。

表2 社会理解（事後）のルーブリック

尺度	4	3	2	1	0
評価基準	テーマの現状と課題について説明されており、具体的なエピソードに触れながら課題解決の方法が示してある。	テーマの現状と課題について説明されており、課題解決の方法が示してある。	テーマの現状と課題が説明されているが、課題解決の方法が示されていない。	テーマの現状について説明されているが、課題に言及していない。	テーマの現状と課題が説明されておらず、課題解決の方法が示されていない。

表3 自己理解（事前）の記述例

尺度	現在やってみたいこと	大人になってやってみたいこと
4	時間があるときにはニュースを見て、新聞以外での知識や考えを深める。また、新聞をよく読んで、上記に関係する興味のある記事があれば使用する。	世界の行政について現在で学んだ後、実際に日本を出て他国に行ってみる。そこで自分で目視をし、さらに現地の人々の考えや行動を学んで、今後の人生に生かせればと思う。
3	地域の特産品を調べ、どのようなところが生かせるか考えたい。	自分の地域の特産品を生かしたPR商品を自分で考えてみたい。目をひくようなパッケージやキャッチコピーを作り、中身にもこだわりたい。
2	できるだけ今の世界のことを友達とかに教えて、少しでも関心を持ってもらいたい。	募金箱に募金を入れたり、より多くの人々が助かるようなことがしたい。
1	選手にサインをもらいたい。W杯見たい。ロナウドに会って家に行ってみたい。	W杯にでて優勝したい。ベルギーとフランスとブラジルに勝ってみたい。今回のW杯の敵討ちをしたい。

0	記述なし	記述なし
---	------	------

表 4 自己理解（事後）の記述例

尺度	現在やってみたいこと	大人になってやってみたいこと
4	今は、地域でできるボランティアや、募金ボランティアが今できることなので、今やりたいです。	自分の県ではなく、その実際に災害が起きた場所に行って、ボランティアをしたい。あと、ホームステイなどもボランティアに入るから、外国とも関わるボランティアをしたい。
3	今まで私はポイ捨てはしてこなかったので、友達とかがポイ捨てしようとしてたら注意したいです。	建物の強化を訴えたいです。
2	今、中学野球で今年のそれぞれの強さというものを中学野球で見つけられるようにそのチームだけの強さをみつけたい。	中学野球で感じたこと、思ったことが次の世代の子供たちに伝えるように今も頑張りたい。
1	勉強です。勉強というのは人生で一番大切とぼくは思います。なので、やってみたいです。	家族を作ることです。
0	記述なし	記述なし

表 5 社会理解（事後）の記述例

尺度	テーマに関して、その現状と課題、および課題の解決・改善方法
4	今は男女差別が起きています。今回は女子が差別されました。女性が働きやすい社会にするには、どうすればいいのか。私は女性の気持ちができるのは女性だけなので、女性が集まり、女性が働きやすい社会にしていく仕組みを考えなければいけないと思いました。性差別なくどんな人でも活躍できる社会を作っていかなければいけないと思います。
3	色んな県が被害にあっている。屋根が飛んだり、けが人がでたり浸水などがおきている。つなみや地震はどうしても防げない時があるので、あとのことを考えて、非常食など防災グッズを集めておく。
2	今は非核化を目指して米朝首脳会談などを行っているが、進む可能性は低いと思います。北朝鮮が素直に比較化するとはとても思えないからです。
1	今回は愛知県のことについて調べたが、どこの市長も様々なPRをしていてとても面白いと思った。これらのPRを続けて私の地元のことを他県の人に知ってもらえたらと考えた。
0	僕は15年ぶりの火星大接近を見ました。すごく明るくきれいだったから天文のことにしようと思いました。もともと僕の好きなのが天文学なので、これを機にやってみました。あと、気象も好きなので楽しくできました。

以上より、自己理解と社会理解を測る評価指標（ルーブリック）を完成できた。なお、社会理解に関しては、新聞切り抜き作品を見ずに記述内容だけで評価するのは容易ではないことから、新聞切り抜き作品そのものを対象にすることが課題の一つとして挙げられる。そこで、2019年度は、作成したルーブリックを用いた検証とさらに、作品自体の評価も試みることにした。

3. 目的[2]:ルーブリックを用いた自己理解と社会理解の評価と作品評価の検討

(1) 調査の概要

愛知県内のC小学校5年生36名とD中学校1年生185名に対して、新聞切り抜き作品づくりの前後に調査紙を用いた調査を行った。調査の内容は、前年度と同様に(a)キャリア

レジリエンス能力尺度 16 項目⁽⁷⁾，(b)総合的な学習の時間で目指す資質や能力・態度に関する尺度 46 項目⁽⁴⁾，(c)記述式調査の 3 つに加え，(d)新聞切り抜き作品の評価を行った。事前を 2019 年 9～10 月に，事後 11～12 月に実施した。なお，新聞切り抜き作品についてはグループで作成しているものや，中学校については一部の作品のみの評価にとどまった。ここでも研究目的に沿って上記(c)と(d)について論じる。

(2) 新聞切り抜き作品の評価の検討

新聞切り抜き作品の評価を行うために，作品の評価指標を作成する必要がある。ただし，作品の評価には，内容だけではなく，レイアウトや色使いなど様々な要素が含まれる。そこでまず，コメントやまとめの記述部分とレイアウト部分に分け，作品の評価を試みることにした。

a. 新聞切り抜き作品のコメントやまとめの記述部分のルーブリックの作成

新聞切り抜き作品の記述部分については，2 章 2 節の方法に倣い，C 小学校の 21 の作品のコメントと全体のまとめの記述を検討し，ルーブリックを作成した。作成したルーブリックと記述例は表 6 と表 7 の通りである。

表 6 新聞切り抜き作品のコメントやまとめの部分ルーブリック

尺度	4	3	2	1
評価基準	記事を通して学んだことが書かれており，そこから発展して具体的に自分がどうしていきたいかが，記事に対してのコメントとまとめの両方に書かれている	記事を通して学んだことが書かれており，そこから発展して自分がどうしていきたいかが，記事に対してのコメントまたはまとめに書かれている。	記事を通して学んだこと，または自分がどうしていきたいかのどちらかが書かれている。	記事を通して学んだことが書かれておらず，自分がどうしていきたいかも書かれていない。

表 7 新聞切り抜き作品のコメントやまとめの部分の記述例

尺度	記事に対してのコメント	まとめ
4	「働きたい気持ちは同じ」この記事を読んで私は，障害の人でも働きたいと思う人がいるということを知ることができました。でも，世の中には「障害だからやらないで！」などと言う人がいるけど，私一人でも人の人権を大切にすれば少しは変わると思うので，人の人権を大切にしたいです。	私たちが，1 人 1 人小さなことでも，助けたり，ボランティアをして，地球に住むみんなが笑顔になるようにやさしい心を持ちたいです。地球には，障害を持った人や高齢者，災害にあった人など，普通の人でも助けが欲しいときが一度はあります。なので，そんな人を見たらほかっておくのではなく，やさしく声をかけたいです。これからも，人の人権を大切にしたいです。
3	ボランティアは何かがあるからやるかではなく，みんなの力になるからやるということがわかりました。いろんな人の力になりたいです。	自分にできることはやって，見出しの通り私が大人になったら，困っている人がいたら，自分から手伝えることのできる明るい世界になってほしいです。今まで知らなかった福祉のことをもっと知って，体の不自

	人を思いやって何かをするということはとてもやさしいことだと思います。人のために苦勞するというのも良い事だと思います。	由な人，高齢者，障害者などの人が少しでも楽になってもらいたいです。 僕は人々が支え合うことや助け合うことにすごいなという思いを持ちました，これから僕も，人々のためにできることを探してやろうと思いました。
2	ないものをねだらないこと，と聞いてすごくいい事を言っているなと思いました。	この新聞切り抜き作品を通して，障害者がどれだけ大変か，どれだけ苦しいかということが分かった気がします。これからも人の人権を守らないといけないということを改めて学びました。
1	これを見てお年寄りの人にいいねと思い，心にいいと思いました。	障害の人も介護をする人もやさしい人の心も新聞切り抜き作品を作っていたら，障害の人も介護をする儀ともやさしい人も新聞切り抜き作品を作る前より分かりました。

b. 新聞切り抜き作品のレイアウト部分の評価

レイアウト部分については，先行研究⁽³⁾で得られた新聞切り抜き作品の6つの学習目標から，記事のレイアウトや記事の数などについて評価基準を満たしているかいないかの2件法で評価した（表8）。

表8 新聞切り抜き作品のレイアウト部分の評価の観点

観点	評価基準（満たしていれば1，満たしていなければ0）
記事のレイアウト	記事やコメントが全体のバランスを考え，見やすく配置されている。
色使いや文字の大きさ	色分けや文字の大きさの変化によって，鮮明に区別されたレイアウトになっている。
記事の数	記事の数が15以上ある。
記事の分類	記事をいくつかのグループにまとめ，小見出しを設定している。
見出し	見出しが，記事の内容や自分(たち)の思いを端的に表している。

c. 新聞切り抜き作品の評価

上記(1)の作品のコメントやまとめの部分のループリック評価と上記(2)のレイアウト部分の評価の相関を取ったところ，ほとんどの項目で有意な相関がみられた（表9）。そのため，上記(1)のループリックの評価とレイアウトの関する評価の合計を併せたものを，新聞切り抜き作品の評価とすることにした。

表9 新聞切り抜き作品の「コメントやまとめ」と「レイアウト」の相関

評価の観点	C 小学校 (N=36)	D 中学校 (N=37)
記事のレイアウト	0.617**	0.469**
色使いや文字の大きさ	0.309+	0.479**
記事の数	0.098	0.309+
記事の分類	0.540**	0.396*

見出し	0.517**	0.438**
合計	0.710**	0.662**

(3) 結果 1: 作成したルーブリックを用いた検証

2章で作成したルーブリックを用いて、著者の一人である原田が中心となって記述調査から、自己理解の事前事後と社会理解の事後を評価した。無回答を除いた C 小学校の 34 名、D 中学校の 93 名の平均値は表 10 の通りである。授業前後で自己理解に変化があるかどうかについて、1 要因参加者内計画の分散分析を行った。その結果、C 小学校において、有意傾向が見られ ($F(1, 33)=3.59$, ($p<.10$)), D 中学校において有意差が見られた ($F(1, 92)=4.27$, ($p<.05$))。つまり、自己理解が授業後に高くなっていることがわかる。

さらに、授業後の自己理解と社会理解に相関があるかを見るために、相関分析を行った。その結果、C 小学校において、自己理解(事後)と社会理解の間に弱い正の相関が見られた ($r=0.499$, $p<.01$)。D 中学校において、自己理解(事後)と社会理解の間に中程度の正の相関が見られた ($r=0.612$, $p<.01$)。

表 10 自己理解(事前・事後)と社会理解の平均値

		自己理解(事前)	自己理解(事後)	社会理解
C小学校	平均値	2.24	2.53	2.15
	標準偏差	0.60	0.78	1.17
D中学校	平均値	1.92	2.1	1.86
	標準偏差	0.75	0.76	1.04

(4) 結果 2: 作品の評価と社会理解について

作品の評価と社会理解について相関を取ったところ、C 小学校において、強い正の相関が見られ ($r=0.704$, $p<.01$), D 中学校においても中程度の正の相関が見られた ($r=0.533$, $p<.01$)。

(5) 考察

自己理解の事前事後を比較すると、C 小学校も D 中学校も事後に有意に高くなっていることがわかる。つまり、活動を通して自己理解が向上したのではないかと考えられる。また、社会理解と事後の自己理解の相関をとると、中程度の相関がみられることから、社会理解が向上し、その結果自己理解が高まっているという仮説が成り立つ可能性が示唆される。ただし、仮説を明らかにするためには、社会理解の事前調査を行うことや、社会理解と自己理解の因果関係の分析が必要となる。また、作品の評価にも初めて取り組んでみたが、コメントやまとめの記述部分の評価と、レイアウトに対する評価に関連があるという興味深い結果が得られた。さらに、作品の評価と社会理解には関連があることも示された。

6. おわりに

本研究では、新聞切り抜き作品づくりを通して社会理解が深まった児童生徒は、事前に

比べて事後で自己理解が深まり，テーマに対する自分たちの夢や希望を書けるようになるという仮説を検証するために，社会理解や自己理解の評価指標（ループリック）を開発した。さらに，社会理解を測るためには切り抜き作品の評価も必要ではないかという課題から，新聞切り抜き作品の評価についても検討し，ループリックを作成した。これらを用いて記述調査や作品を評価したところ，活動を通して自己理解が向上することや，社会理解と自己理解に関連があること，社会理解と作品の評価に関連があることが明らかになった。また，社会理解が深まり自己理解につながるという仮説が支持される可能性があることがわかった。

一方で，新聞切り抜き作品づくりの検証を通して，無回答が一定数存在することや，クラスや児童生徒による評価結果バラツキが大きいことから，新聞切り抜き作品のテーマ内容や活動への主体的参加の度合い，指導の方法等によって，結果が左右されていることも考えられ，活動自体の敷居の高さも伺える。今後，新聞切り抜き作品の活動の方法も含めて，さらに研究が必要であると考えられる。

付記

本研究は，愛知教育大学と中日新聞社の「学校における NIE の教育効果に関する実証的研究」の 2018 年度・2019 年度報告書にまとめた結果の一部と，原田茉衣の 2019 年度卒業研究「新聞切り抜き作品づくりの学習効果の検証—作品の評価を取り入れて—」を再構成しまとめたものである。なお，目的[1]のループリック作成部分については主に京免が，目的[2]については主に原田・梅田が担当した。

参考文献

- 坂柳恒夫(2016)小・中学生の生き抜く力に関する研究 -キャリアレジリエンス態度・能力尺度（CRACS）の信頼性と妥当性の検討-，愛知教育大学研究報告，教育科学編(65)，85-97
- 梅田恭子(2017)新聞切り抜き作品の教育効果検証の過程と結果について，第 22 回 NIE 全国大会特別分科会「新聞切り抜き作品の教育効果検証」
- 久野弘幸，村川雅弘，鎌田明美，眺野大輔，三島晃陽，松田淑子，山内貴弘，田村学(2015)総合的な学習で育まれる学力とカリキュラムⅡ(中学・高校編)「せいかつ&そうごう：日本生活科・総合的学習教育学会誌(22)，22-31
- 中日新聞社 NIE 教育に新聞を 新聞切り抜き作品コンクール
<https://www.chunichi.co.jp/info/nie/concours> (参照日 2021/1/18)
- 土屋武志，梅田恭子，京免徹雄(2018)愛知教育大学委託事業 学校における NIE の教育効果に関する実証的研究 2018 報告書
- 西岡加名恵(2016)「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価，明治図書
- 原田茉衣，梅田恭子，土屋武志(2019)愛知教育大学受託研究 学校における NIE の教育効果に関する実証的研究 2019 年度 報告書
- 文部科学省(2017)小学校学習指導要領解説総則編